

2021年9月期 第1四半期 決算説明資料

2021年2月

フィンテック グローバル株式会社

(東証第二部 : 8789)

<http://www.fgi.co.jp/>

目次

総括	2
連結業績概況	3
四半期連結業績推移	4
セグメント別業績	5
投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益	7
エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移	8
投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)	9
受託資産残高の推移	10
連結貸借対照表、連結損益計算書	11
連結経営指標等の推移	13
会社概要	14

営業利益、経常利益ともに黒字化

投資銀行事業が好調 連結業績牽引

- ・プライベートエクイティ投資関連業務や、航空機アセットマネジメントが伸びる。

エンタテインメント・サービス事業は、メッツァが回復 ライセンス関連が伸長し、セグメント損益は黒字を確保

- ・メッツァは感染拡大防止策をとった上で、イベントなどで集客し来園者数が回復。コスト削減による収支均衡策を継続。
- ・ライセンス関連はブランディングにより市場拡大。前期4Qから売上高が伸長。

メッツァは1月以降、苦戦を強いられるが、 投資銀行事業は大きく伸長する見込みのため、連結業績予想は変更せず

- ・投資銀行事業は、プライベートエクイティ投資などにおいて、今後も順調に案件組成が進んでいく見込み。企業投資、アセット投資の回収も、見込む。
- ・メッツァは、2021年1月の緊急事態宣言の発出により、来園者数は大幅に減少しており、当面は苦戦を強いられる。
- ・好調な投資銀行事業が、メッツァの減少分をカバーできるため、連結業績予想の修正は必要ないと判断。

連結業績概況

(単位：百万円)

	2020年9月期 第1四半期	2021年9月期 第1四半期	増減額	増減率	業績予想 2020/11発表	業績予想 進捗率
売上高	2,209	2,020	△ 189	△ 8.6%	9,000	22.4%
売上総利益	696	825	+129	18.6%	—	—
営業利益	△258	53	+312	—	540	9.8%
経常利益	△297	9	+306	—	370	2.5%
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	△284	△63	+221	—	250	—
償却前営業利益	△5	224	+230	—	—	—

・償却前営業利益 = 営業利益 + 原価・販管費に含まれる減価償却費及びのれん償却費

売上高

投資銀行事業は好調に推移するも、メッツアの来園者数減少により、減収。

- 投資銀行事業は、プライベートエクイティ投資に関するアドバイザリー業務や、航空機アセットマネジメントが好調に推移し、増収（外部売上高257百万円増）
- メッツア来園者数は前4Qより回復するも、コロナの影響がなかった前1Q比で21%減となり、エンタテインメント・サービス事業は減収（外部売上高423百万円減）

売上総利益

原価率の低い投資銀行事業の業務受託等の売上が伸長し、売上総利益が増加。

営業利益

売上総利益の増加と販管費の減少により、営業損益は黒字に転換。

- 販管費は182百万円減（19%減）の772百万円。
- メッツアは、コスト削減した運営体制を維持。

親会社株主に帰属する 当期純損益

非支配株主に帰属する四半期純利益52百万円により最終利益は黒字化に至らず。

- ムーミン物語の損失、SGI及びライセンス・アンド・ブランドの利益を、持分に依りて非支配株主に按分。

業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

四半期連結業績推移

(単位：百万円)

	2020/9期					2021/9期	直前四半期比 (前期4Q比) 増減額 (増減率)	前年同期比 増減額 (増減率)
	1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	1Q		
売上高	2,209	2,060	926	1,644	6,841	2,020	+375 (+22.8%)	△ 189 (△ 8.6%)
売上総利益	696	604	368	643	2,313	825	+182 (+28.4%)	+129 (+18.6%)
営業利益	△258	△236	△398	△99	△992	53	+152 (-)	+312 (-)
経常利益	△297	△263	△428	△146	△1,135	9	+155 (-)	+306 (-)
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	△284	△296	△464	△140	△1,186	△63	+77 (-)	+221 (-)
償却前営業利益	△5	△23	△307	73	△264	224	+151 (+207.2%)	+230 (-)

・償却前営業利益は、営業利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

セグメント別業績 - 1

- ・投資銀行事業の売上高・売上総利益の増加が、連結業績を牽引。
- ・エンタテインメント・サービス事業は、メッツアの回復、ライセンス関連の伸長により、セグメント損益が黒字化。

(単位：百万円)

報告セグメント	科目	2020/9期					2021/9期	直前 四半期 (4Q) 比	前年同期比
		1Q	2Q	3Q	4Q	4Q累計	1Q		
投資銀行事業	売上高	555	849	497	623	2,525	✓ 812	✓ +189	✓ +257
	売上総利益	316	403	325	437	1,482	✓ 499	✓ +62	✓ +183
	セグメント利益	△71	36	26	118	109	142	+24	+213
公共コンサルティング 事業	売上高	64	62	43	83	253	62	△21	△1
	売上総利益	33	34	25	57	151	38	△18	+5
	セグメント利益	△7	△5	△12	10	△15	△2	△13	+4
エンタテインメント・ サービス事業	売上高	1,647	1,202	448	1,006	4,304	✓ 1,223	✓ +217	✓ △423
	売上総利益	376	190	50	180	797	327	+146	△49
	セグメント利益	△18	△142	△253	△101	△515	✓ 47	✓ +149	✓ +66
調整額 (セグメント間取引消 去又は全社費用)	売上高	△57	△54	△62	△68	△242	△78	△9	△20
	売上総利益	△29	△24	△32	△32	△118	△39	△7	△9
	セグメント利益	△161	△124	△158	△126	△571	△134	△7	+26
連結P L計上額	売上高	2,209	2,060	926	1,644	6,841	2,020	+375	△189
	売上総利益	696	604	368	643	2,313	825	+182	+129
	セグメント利益	△258	△236	△398	△99	△992	53	+152	+312
関連事項			ムーミンバ レーパーク 16日間 臨時休園	ムーミンバ レーパーク 80日間、 メッツア ビレッジ 44日間 臨時休園					

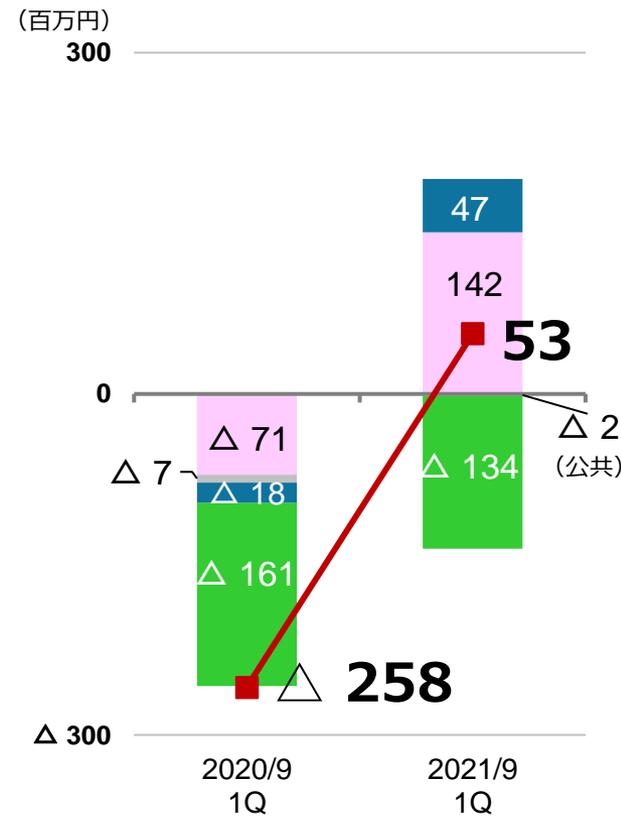
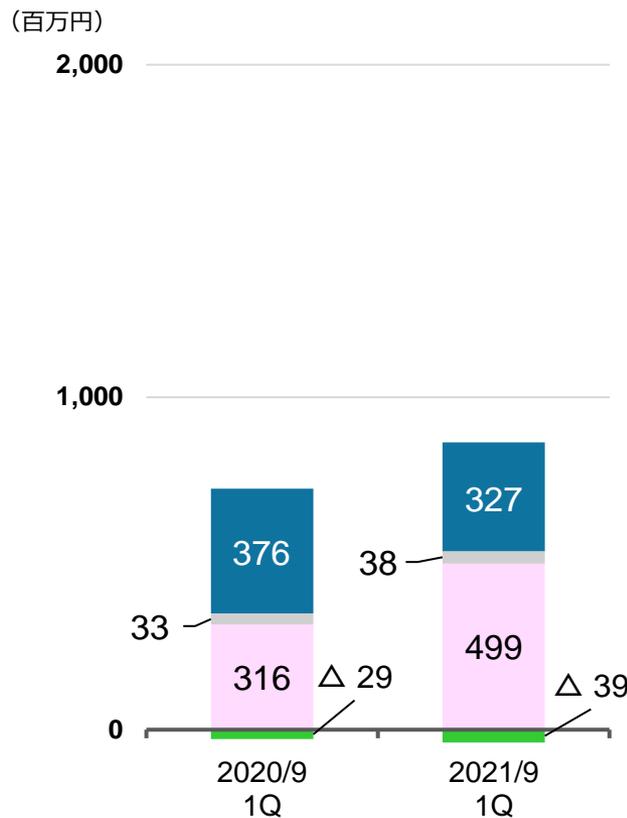
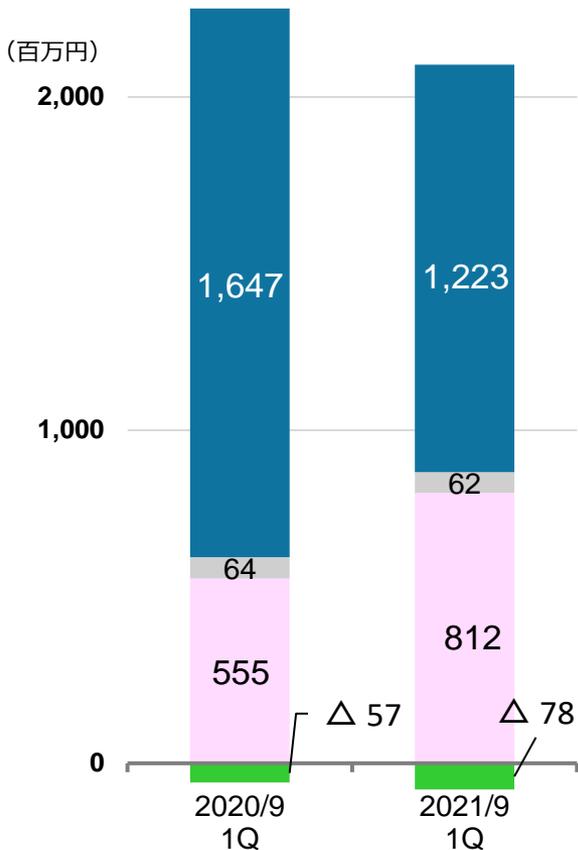
- ・各セグメントの売上高は、セグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高です。
- ・調整額(セグメント利益)(2021年9月期1Qは△134百万円)には、セグメント間取引消去(2021年9月期1Qは55百万円)及び報告セグメントに配分していない全社費用(2021年9月期1Qは△190百万円)を含む。全社費用は合理的な配分が難しいなどの理由により報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

セグメント別業績 - 2

売上高

売上総利益

営業利益



2,209
2,020
189百万円減 (8.6%減)

696
825
129百万円増 (18.6%増)

312百万円改善

(注) セグメント別内訳は、他のセグメントとの取引を消去しない数値を使用。

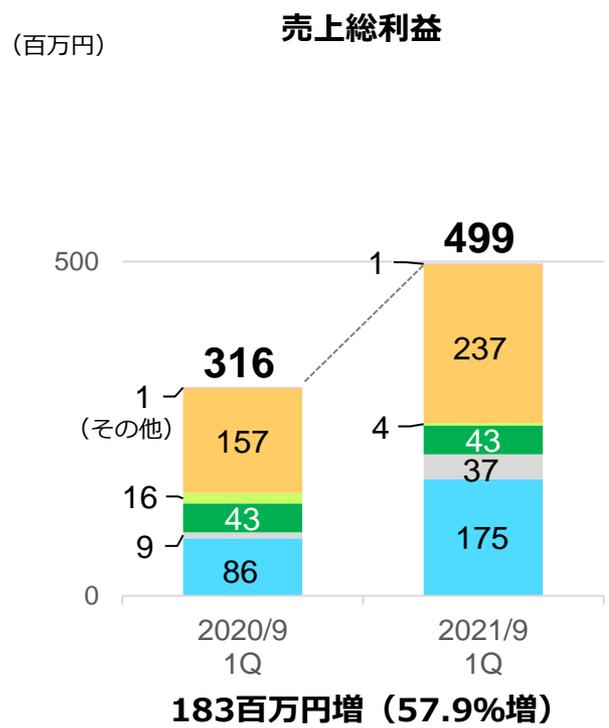
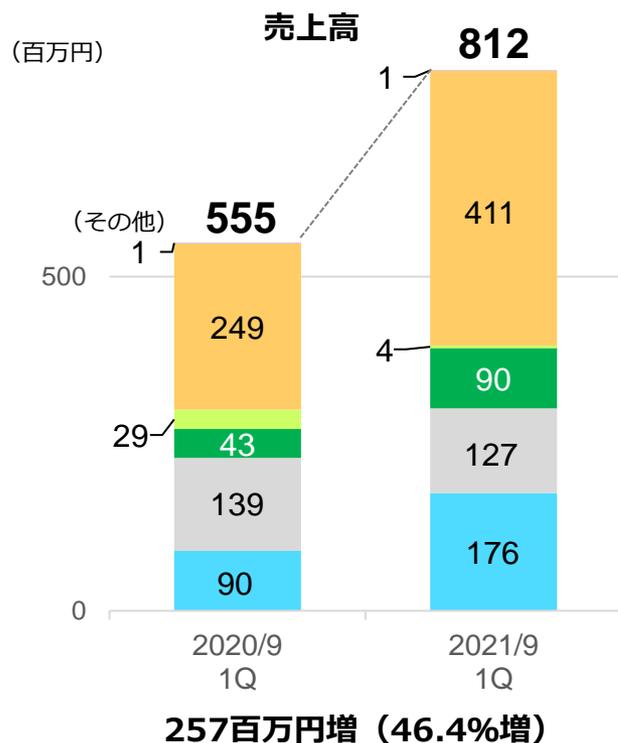


投資銀行事業セグメントー業務別売上高、売上総利益

業務受託と航空機アセットマネジメントが好調。

売上高は46.4%増、売上総利益は57.9%増。

- ・ **業務受託** 事業承継案件のアドバイザー業務やファンド組成業務、不動産仲介等により、増収。
- ・ **アセット投資** 前期にエグジットした不動産ファンドからの投資回収を売上計上。
- ・ **メツァビレッジ** 前1Qにはムーミン物語にマスターリースしており、売上原価はなかったが、当1Qは各テナントへ直接賃貸しているため、運営コストを売上原価に計上。売上総利益は変動なし。
- ・ **航空機アセットマネジメント** コロナ禍の影響で、金融機関や所有者（レッサー）から、機体検査や機体返還などの技術サービス提供依頼が増加したことにより、売上高、売上総利益とも増加。



- その他
- 航空機アセットマネジメント
- 企業投資
- アセット投資
- メツァビレッジ
- 業務受託 (アレンジ、アセットマネジメント、不動産仲介等)

(注) セグメント間の内部売上高は、消去しない数値を使用。

エンタテインメント・サービス事業 業績等の推移（四半期）

メッツァは来園者数が回復。費用削減により、収支は均衡する。

ブランディングにより市場を拡大させているライセンス事業により、セグメント損益は黒字化。

メッツァ関連

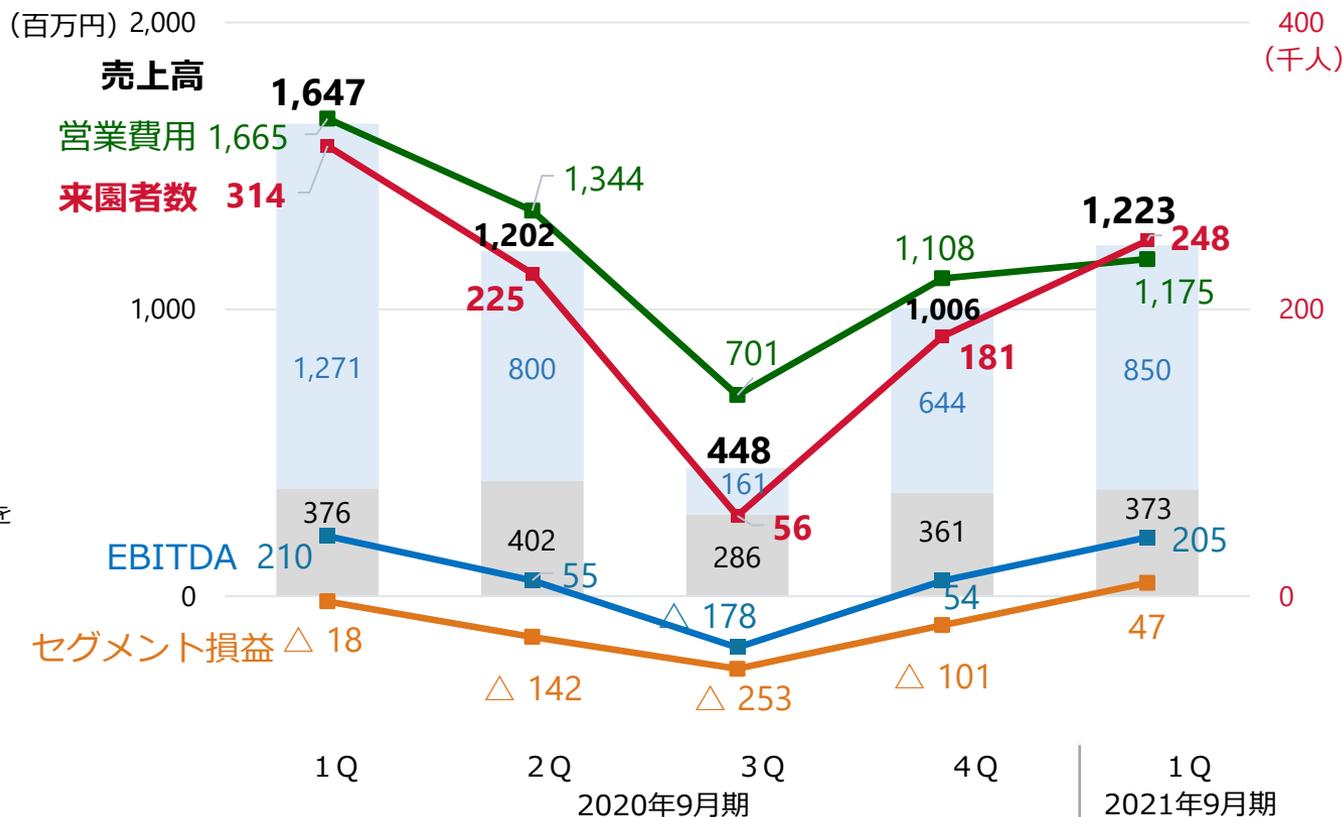
- 各種イベント効果などにより、当1Qの来園者数は直前四半期（4Q）比37%増の24万人に回復したが、コロナの影響がなかった前1Q比では21%減。
- 1月7日の緊急事態宣言の発出により、来園者数は大幅に減少。
- 費用削減による収支均衡策を継続。

ライセンス関連

- 緊急事態宣言により大型商業施設等が休業となった前期3Qの落ち込みから、徐々に回復。直前四半期（4Q）比で売上高を伸ばし、セグメント損益の黒字化に貢献。

売上高

- メッツァ関連
- ライセンス収入・アニメ放映権収入



(注)1 来園者数は、メッツァビレッジ・ムーミンバレーパークの合計。

2 売上高は他の報告セグメントとの取引を消去しない数値を使用。

3 EBITDAは、セグメント利益に売上原価、販売費及び一般管理費に含まれる減価償却費及びのれん償却費を足し戻して算出。

投融資残高の推移 (FGI,FGT合計)

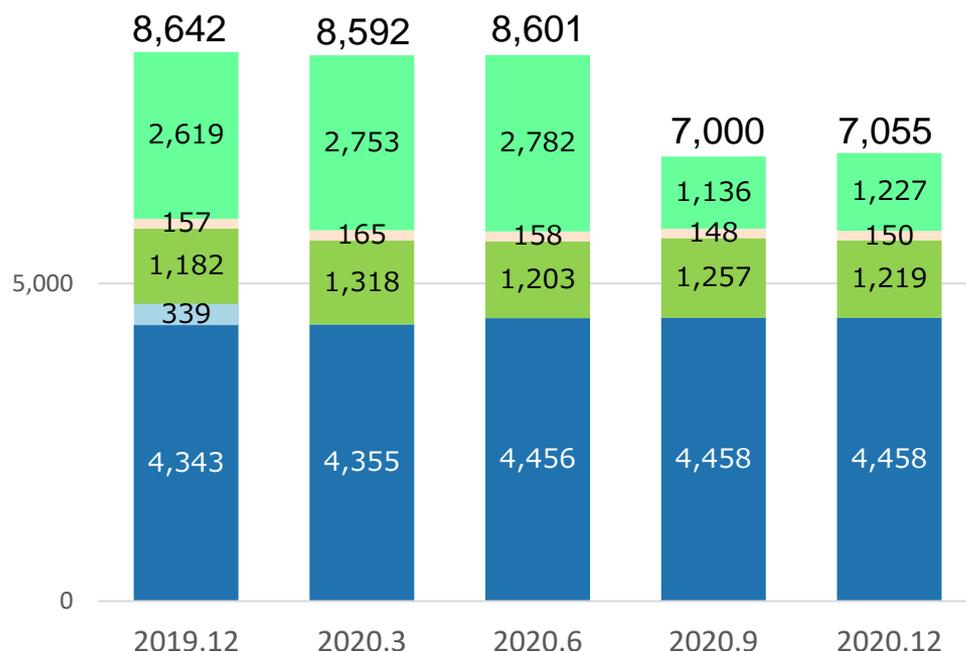
2021年9月期1Q (2020/10~2020/12) の主な変動要因

■ プリンシパルインベストメント

・プライベートエクイティ投資等により増加。

当社(FGI)、フィンテックグローバルトレーディング (FGT) の投融資合計額 (子会社への出資を含む)

(百万円)
10,000



(注) FGI、FGT間の出資・貸付は、含めず。

■ プリンシパルインベストメント
ベンチャーキャピタルファンドへの投資を除く営業投資有価証券、投資有価証券、関係会社株式、関係会社出資金の合計額。

■ ベンチャーキャピタルファンド
FinTech GIMV Fund (FGF)、他2ファンドへの投資

■ 企業融資
営業貸付金、子会社への短期貸付金の合計額。全額引当している債権は含めないが、子会社貸付は全額計上。

■ 不動態等(投資銀行事業)
投資銀行事業における運用不動産、開発用不動産。BSでは仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。

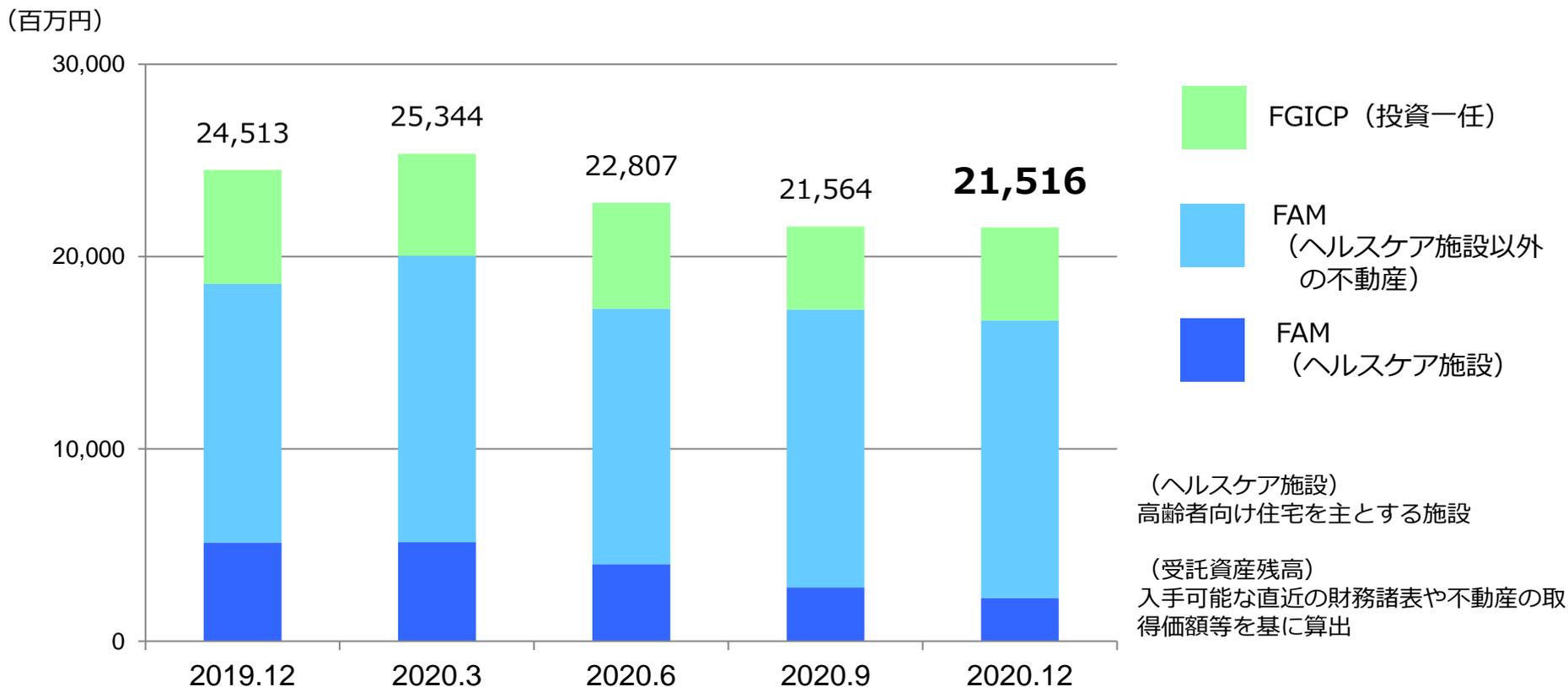
■ 不動態等(メツツア)
メツツアにおける不動産。メツツアビレッジの不動産は仕掛販売用不動産・販売用不動産に計上。ムーミンバレーパークの土地は、法的には地域SPCに譲渡しているが会計上は当社固定資産に計上しているため、当該金額に含めている。

受託資産残高の推移

フィンテックアセットマネジメント (FAM)
FGIキャピタル・パートナーズ (FGICP)

2021年9月期1Q (2020/10~2020/12) の主な変動要因

- ・ エグジットによるヘルスケア施設への受託資産が減少。
- ・ プライベートエクイティ投資案件に係る受託資産は増加。



連結貸借対照表

資産の部

	20年9月期	21年9月期 第1四半期	増減
流動資産	8,803,255	9,209,862	406,606
現金及び預金	2,162,069	2,185,778	23,709
1 受取手形・売掛金	564,724	929,342	364,617
2 営業投資有価証券	1,128,045	1,122,760	△ 5,285
営業貸付金	514,798	477,098	△ 37,700
販売用不動産	3,999,865	3,999,865	0
商品	257,591	233,412	△ 24,178
その他	272,878	378,914	106,035
貸倒引当金	△ 96,718	△ 117,309	△ 20,590
固定資産	7,780,293	7,549,722	△ 230,570
3 有形固定資産	6,705,906	6,567,594	△ 138,311
無形固定資産	600,756	610,720	9,963
投資その他の資産	473,630	371,407	△ 102,222
資産合計	16,583,548	16,759,584	176,035

1 事業承継案件に係るアドバイザー業務や、航空機アセットマネジメント業務など売上高が増加している業務に係る売掛金が増加。

2 事業承継案件へプライベートエクイティ投資を実行するも、子会社SPCの不動産信託受益権売却が進捗して減少。

3 ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却により減少。

4 親会社株主に帰属する四半期純損失、及び関連会社であった㈱アダコテックの持分法適用除外による減少。

負債の部

(単位：千円)

	20年9月期	21年9月期 第1四半期	増減
流動負債	2,333,428	2,599,294	265,865
支払手形・買掛金	109,597	294,162	184,565
短期借入金	69,701	26,800	△ 42,901
1年内返済予定の長期借入金	615,111	547,517	△ 67,594
未払法人税等	97,250	117,047	19,797
リース債務	222,578	224,502	1,924
賞与引当金	130,666	74,669	△ 55,997
その他	1,088,523	1,314,595	226,071
固定負債	6,945,738	6,960,731	14,993
長期借入金	6,125,744	6,204,710	78,966
リース債務	581,872	525,019	△ 56,853
繰延税金負債	96,324	84,664	△ 11,659
退職給付に係る負債	108,259	112,799	4,539
その他	33,536	33,536	0
負債合計	9,279,166	9,560,025	280,858

純資産の部

株主資本	6,294,416	6,142,754	△ 151,662
資本金	6,462,062	6,462,099	36
資本剰余金	5,016,132	4,994,549	△ 21,582
4 利益剰余金	△ 5,183,778	△ 5,313,894	△ 130,116
その他の包括利益累計額	△ 36,213	△ 30,504	5,709
新株予約権	64,045	60,981	△ 3,064
非支配株主持分	982,133	1,026,327	44,194
純資産合計	7,304,381	7,199,558	△ 104,823
負債純資産合計	16,583,548	16,759,584	176,035

連結損益計算書

	2020年9月期 第1四半期		2021年9月期 第1四半期		(単位：千円)			
		売上比		売上比	増減額	増減率		
売上高	1	2,209,465	100.0%	2,020,237	100.0%	△ 189,228	△ 8.6%	
売上原価		1,512,927	68.5%	1,194,342	59.1%	△ 318,585	△ 21.1%	
売上総利益	2	696,537	31.5%	825,894	40.9%	129,357	18.6%	
販売費及び一般管理費	3	955,454	43.2%	772,773	38.3%	△ 182,680	△ 19.1%	
営業利益又は営業損失 (△)		△ 258,917	△ 11.7%	53,120	2.6%	312,037	—	
営業外収益		4,768	0.2%	3,148	0.2%	△ 1,619	△ 34.0%	
営業外費用		42,869	1.9%	47,051	2.3%	4,182	9.8%	
経常利益又は経常損失 (△)		△ 297,017	△ 13.4%	9,218	0.5%	306,236	—	
特別利益		4,486	0.2%	3,031	0.2%	△ 1,455	△ 32.4%	
特別損失		2,140	0.1%	1,122	0.1%	△ 1,018	△ 47.6%	
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失 (△)		△ 294,671	△ 13.3%	11,128	0.6%	305,799	—	
法人税等合計		2,701	0.1%	21,880	1.1%	19,178	710.0%	
四半期純損失 (△)		△ 297,372	△ 13.5%	△ 10,752	△ 0.5%	286,620	—	
非支配株主に帰属する四半期純利益又は 非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)		△ 12,488	△ 0.6%	4	52,269	2.6%	64,757	—
親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)		△ 284,884	△ 12.9%	△ 63,021	△ 3.1%	221,862	—	

1 プライベートエクイティ投資に係るアドバイザー業務や、航空機アセットマネジメントが好調に推移したものの、コロナ禍によりメツアの来園者数が前第1四半期比で21%減となったことにより、減収。

2 原価率が低い投資銀行事業の業務受託等による売上高が伸長したことにより、減収にもかかわらず、売上総利益は増加。

3 2020年9月期に各種コストの削減を進めたことにより、当第1四半期においても前年同期比19.1%減少。メツアは、コスト削減した運営体制を維持。

4 主にムーミン物語の損失、SGI-Group（その子会社を含む）及びライセンス・アンド・ブランドの利益を、持分に依りて非支配株主に按分。

連結経営指標等の推移

		2016年 9月期	2017年 9月期	2018年 9月期	2019年 9月期	2020年 9月期	2021年9月期 第1四半期
売上高	(百万円)	7,485	7,182	3,689	9,175	6,841	2,020
売上総利益	(百万円)	1,496	1,626	2,261	2,944	2,313	825
営業利益又は営業損失(△)	(百万円)	△ 1,031	△ 1,319	△ 1,072	△ 1,664	△ 992	53
経常利益又は経常損失(△)	(百万円)	△ 1,369	△ 1,341	△ 1,227	△ 1,850	△ 1,135	9
親会社株主に帰属する当期(四半期)純損失(△)	(百万円)	△ 1,384	△ 1,358	△ 820	△ 1,586	△ 1,186	△ 63
純資産	(百万円)	6,312	5,326	8,551	8,873	7,304	7,199
総資産	(百万円)	10,975	12,932	14,016	19,025	16,583	16,759
1株当たり純資産	(円)	38.66	29.64	39.31	37.03	31.12	30.39
1株当たり当期純利益 又は当期(四半期)純損失(△)	(円)	△ 8.56	△ 8.39	△ 4.79	△ 8.08	△ 5.90	△ 0.31
潜在株式調整後 1株当たり当期(四半期)純利益	(円)	-	-	-	-	-	-
自己資本比率	(%)	57.0	37.1	52.2	39.1	37.7	36.5
自己資本利益率	(%)	△ 19.7	△ 24.6	△ 13.5	△ 21.5	△ 17.3	-
株価収益率	(倍)	-	-	-	-	-	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 1,305	△ 1,153	△ 2,978	△ 2,604	680	-
投資活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 302	△ 1,026	△ 2,008	△ 4,543	△ 282	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	(百万円)	△ 751	2,937	5,771	5,710	△ 767	-
現金及び現金同等物の期末残高	(百万円)	2,240	2,969	3,847	2,513	2,142	-
従業員数(連結) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	114(20)	143(27)	156(47)	167(262)	156(224)	153(211)
従業員数(単体) (外、平均臨時雇用者数)	(人)	45(8)	40(6)	38(5)	39(5)	28(6)	29(5)

フィンテック グローバル株式会社 会社概要

本店所在地	東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア15階		
設立	1994年12月7日		
代表	代表取締役社長 玉井 信光		
上場日	2005年6月8日		
証券コード	8789 (東京証券取引所市場第二部)		
事業年度	10月1日から9月30日まで		
事業内容	①投資銀行事業 ②公共コンサルティング事業 ③エンタテインメント・サービス事業		
発行済株式総数	201,115,600株 (2020年12月31日現在)		
単元株式数	100株		
資本金	6,462百万円 (2020年12月31日現在)		
連結純資産	7,199百万円 (2020年12月31日現在)		
大株主 (2020年9月30日現在)	玉井 信光 (株)CAT-MY	10,095,500 10,000,000	(5.02%) (4.97%)
連結従業員数	153名 (2020年12月31日現在、臨時従業員含まず)		

フィンテック / FinTech (登録5113746)・FinTech Global (登録5811521)・フィンテックグローバル (登録5811522)・FGI (登録5113748)は、フィンテック グローバル株式会社の登録商標であります。

免責条項

本資料は、当社およびFGIグループの2021年9月期第1四半期決算に関する情報の提供を目的としたものであり、有価証券にかかる売買、金融商品取引に係る契約等いかなる商品の勧誘をするものではありません。

本資料に記載されている、各種資料・文書には、当社またはFGIグループに関連する見通し、方針、経営戦略、目標、予定、事実の認識・評価などといった、将来に関する記述をはじめとする歴史的事実以外の事実を記載しているものが含まれていることがあります。これらの歴史的事実以外の事実（以下、「将来情報」ということがあります）の記載は、当社またはFGIグループが入手した情報に基づく、当該資料・文書の日付（または当該資料・文書に別途明示された日付）時点における予測、期待、想定、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・目標等を策定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・目標設定等を行うために不可欠となる一定の前提（仮定）を使用しています。これらの記述ないし事実または前提（仮定）については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。したがって、これらの記述ないし事実または前提（仮定）が、客観的に不正確であり、将来実現しないという可能性があります。その原因となりうるリスクや要因は多数あります。将来情報は、将来発生する事象、リスク、不確実性を内包する要因を含んでおり、そうした前提は、当社またはFGIグループの実際の業務・業績に著しい悪影響を及ぼす可能性があります。かかる要因には、日本国、米国、アジアあるいはその他の国・地域における経済状況の悪化、不動産価値または株価の下落、FGIグループの貸出先の産業分野における企業破綻の増加やその他問題の発生、当社の経営統合およびコスト削減期待の実現の困難化または遅延、競争の激化、FGIグループの業務に関わる法令規則の改正、FGIグループにとって不利益となる日本国経済その他の政策の変更が含まれます。

なお、将来情報に関する記述を含む資料・文書が本資料に記載されている間においても、当該将来情報は上記のとおり当該資料・文書の日付（またはそこに別途明記された日付）時点のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。